

この社協だよりは赤い羽根共同募金の配分により発行されています。

社協のマークは、「社」の文字を図案化したものです。「手を取り合って明るい社会を作る姿」表しています。

ほほえみ



平成26年度 No.1

発行／平成26年9月16日

苫前町社会福祉協議会



〒078-3792

苫前町字旭37番地の1
(苫前町役場内 1階)

TEL0164-64-2387/FAX0164-64-9090

mail: tomamae-shakyo@feel.ocn.ne.jp

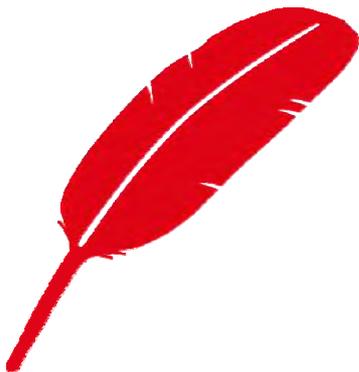


じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

この共同募金は、義援金と違いとままえ町の福祉に役立てられる募金です。

10月1日から募金運動が スタートします！！



とままえ町の福祉のために

目標額 1,032,000円

苫前町の地域福祉のために 7割

北海道の福祉のために 3割

全国の災害支援のためにも。

赤い羽根共同募金

※赤い羽根共同募金については、途中経過報告をいたします。

「寄付金付募金バッチ」の御協力をお願いいたします。(1個 500)



【苫前町限定オリジナルバッチ】



【北海道限定 シマエナガ】



【初音ミク】



(赤い羽根募金のおいたち)

昔、ヨーロッパのある村で1人の牧師が、道端の樫の木に「与えよ、取れよ」と書いた箱をつるしておきました。生活に困っている人や病人、老人を助けるためのものでした。これをみた村人の中で、多少とも余裕のある人はその箱の中にいくらかのお金を入れ、困っている人は箱の中から必要なだけお金を引き出して役立てました。この牧師の精神 ～たすけあいのころ～ が現在の赤い羽根共同募金運動に受け継がれたといわれています。



(わが国の赤い羽根共同募金のはじまり)

昭和20年、終戦直後、生活困窮者と戦災孤児の激増など、深刻な社会的・経済的混乱のなかで、国は「生活保護法」(昭和21年10月制定)を中心とした公的扶助政策を推進してきました。一方で、戦前国内に6,700余あった民間社会福祉施設は、戦災によって3,000余に激減し、さらにインフレによる物価の高騰、物資の入手難などによって、復興はおろか施設の維持さえも困難な状況となりました。

また、昭和21年、連合軍総司令部(G.H.Q)は、国が行うべき政策を民間の事業体に行わせてはならないことと、民間が行う事業への公金支出を禁止する覚書を国に発しました。当時、「公私分離の原則」と呼ばれたものです。このような状況のなかで、民間社会福祉事業の活動資金を確保するための寄付金募集(共同募金運動)を、全国的に実施しようという気運が公私の間に高まり、この運動を展開するために「社会事業共同募金中央委員会」(現在「中央共同募金会」)が組織されました。併行して、厚生省(現在「厚生労働省」)が提唱した、国民の“たすけあいの心”を喚起する「国民たすけあい運動」の一環として実施するための「共同募金(コミュニティーチェスト)実施要綱」が昭和22年8月に策定され、第1回の共同募金が昭和22年11月25日から12月25日までの1カ月を運動期間として実施されました。



(赤い羽根の由来)

共同募金のシンボルとして親しまれている【赤い羽根】が、共同募金運動のなかで登場したのは、運動開始後2年目の昭和23年からでした。当時、街頭募金の寄付済みの印として何を採用するか検討が行われました。同時期にアメリカでも社会福祉のための募金活動(United Way)が行われ、水鳥の羽根を赤く染めて使っていることにヒントを得て、日本でも鶏の羽根を使うことになりましたが、当時の国民感情としては、赤い印を胸に着けることは突飛すぎると難色を示した方が多かったです。

しかし、当時の社会事業共同募金中央委員会(現在「中央共同募金会」)の総裁・故高松宮様の熱心なお勧めもあって、赤色を採用することになりました。

戦後の世相の中で、明るい心の触れ合いを求めようとする人々の感情をとらえたのか、【赤い羽根】は、日本国中の人々の胸に飾られ、製造が間に合わないほどの大反響が得られました。

あなたにあった募金方法は!?
例えば→



- ①社協事務局へ来所
- ②家に取りに来て欲しい方はお電話を!
- ③コツコツ貯めたい人は、専用の募金箱を用意しています。



第8回 苫前町ふれあいスポーツ大会

(第41回 苫前町高齢者スポーツ大会)

開催日時 平成26年10月11日(土曜日) 9:30~14:00
開催場所 苫前町スポーツセンター(苫前町字古丹別256-2)
参加対象 苫前町在住の65歳以上の方(応援のみ参加される方も大歓迎です!)
申込期日 平成26年9月30日(火曜日) 午前中まで。

申込み先: 苫前町社会福祉協議会(担当: 阿部・小野)

電話 64-2387

※老人クラブ及び身障協会会員の方は、会で参加とりまとめいたします。

その他 お弁当を申し込まれる方は、一食700円(飲み物付)で幹旋します。
送迎は、申込み締め切り後に参加者へ連絡いたします。
※申込時に、お弁当希望の有無、バス乗車の有無を申し出下さい。
※締め切り後の申込みにはスポーツ傷害保険の対象外となりますので御理解願います。

チーム編成 ●緑チーム (九重、三溪、岩見、東川)

●赤チーム (上平、旭、香川、小川)

●白チーム (長島、古丹別)

●黄色チーム (苫前、昭和、栄浜、力昼)

※当日は、上靴、動きやすい服装でご参加下さい。

前年度優勝
チームは「赤
チーム」です。

~閉じこもり予防の全町型サロン~
元気なうちから「介護予防」

第4回 ふれあい倶楽部

開催日時 平成26年10月21日(火曜日) 9:30~
開催場所 とままえ温泉ふわっと ふわっとホール(2階)
参加対象 おおむね60歳以上の方、老人クラブ会員の方(未加入者も大歓迎!)
内容 午前 指で書くパステル和みアート(指で書く絵)
午後 音楽レクリエーション(入浴14:30~15:30)

持ち物 タオル

参加費 850円(昼食代) 当日入浴希望の方は入浴代250円

申込期日 平成26年10月3日(金曜日) 午前中まで。

申込み先: 苫前町社会福祉協議会(担当: 阿部・小野)

電話 64-2387

※老人クラブ会員の方は、会で参加とりまとめいたします。

募集中!

その1

訪問介護員(ホームヘルパー)を募集しています。
(詳しい内容は、募集要項をお読み下さい。)
問い合わせや、直接お話しを聞きたい方は、担当者が不在になるこ

募集中!

その2

ボランティアを募集しています。
社協での事業又は、各種イベント等で活躍希望のボランティアを募集しています。ボランティア登録者には、ボランティア保険の加入経費は社協で負担します。お問い合わせは、遠慮せずに連絡願

募集中!

その3

とままえ社協会員を募集しています。
社協では、町内に住むすべての住民が福祉に関心を持ち、さまざまな福祉活動に参加できる仕組みをつくとともに、地域における多様な機関・組織・団体と連携して地域福祉を支える輪を広げていき

あなたも福祉のまちづくりを支える一員に！！

社協会員は、ボランティア活動、小地域の福祉活動、公的サービスにないサービスなど「住み慣れた地域で、安心して暮らすことのできるまちづくり」を目標に、住民参加の地域福祉活動を目指した、苫前町社協独自の事業をすすめる上での大切な財源です。

■個人会費 年額1口 500円 ■特別会員 年額1口 1,000円

■賛助会員 年額1口 3,000円

何口でも結構です！御協力よろしくお願いたします。



社協へありがとう

寄付者一覧

(H26.4.1~H26.8.30)

岩見 丹羽リツ子様	札幌市	鳴海哲也様
弟子屈町 萩原健司様	苫前	能登輝夫様
古丹別 鈴木修蔵様	古丹別	伊藤榮子様
古丹別 三上敏行様	古丹別	中野誠也様

寄付金をお寄せ下さい

チャリティー事業等の寄付金、香典返し・見舞い返し等の寄付金をお預かりします。

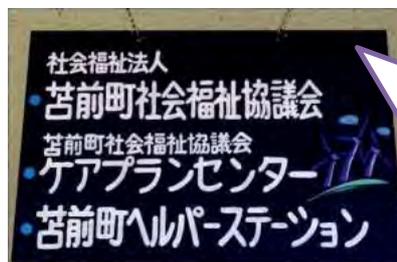
指定寄付

寄付者の意向に基づき、各団体・施設等へ配分いたします。



社会福祉協議会(通称:「社協」(しゃきょう))は、苫前町役場の1階にあります。地域福祉事業、介護保険事業(居宅介護(ケアプラン事業)、訪問介護事業(ヘルパー事業))などを行っています。困りごと、介護申請の相談などはお気軽に問いあわせ願います。

社協だよりは、回覧発行しています、個人的に購読希望の方は、事務局まで連絡願います。(電話64-2387)



役場1階のこの看板が目印です。
看板寄贈者 横内吉弥様
看板題字 野澤哲美様